

## ジャーナリストの存在が危ぶまれる時代

海外をメインに活動する僕の友人が、自身のレターサービス以外の全てのSNSを止めた。理由はSNSでの発言がチェックされて、海外取材に支障をきたし始めたからだそうだ。

本来、自分が取材した結果は雑誌やテレビが扱ってくれなくてもSNS上で多くの人に知ってもらいたいと思うのがジャーナリスト。僕の友人は取材結果の発表よりも、自分自身のジャーナリストとしての寿命を選んだ形だ。

日本の大手メディアが元気だったのはいつ頃までだろう？2001年のアフガニスタン戦争、2003年のイラク戦争の頃だろうか？僕は両方とも負ける側から取材して、その結果はテレビや雑誌に取り上げてもらうことができた時代だった。

イラク戦争以降、日本人が海外で殺害される事件がいくつも起きて、「自己責任論」なるものが出てきた。そもそも、ジャーナリストは自己責任で取材に出かけている。もし誘拐されたとしても日本政府に助けてもらわなくて良い、だから自由に取材させてほしい、とさえ思っている。

フランスのフリージャーナリストが解放された時、フランス政府専用機で帰国し、シャルル・ドゴール空港には多くの人が集まり、スタンディングオベーションで彼の帰国を祝った。

かつてイラクで拘束された日本人は、帰国の為の飛行機代を日本政府から請求され、帰国後、謝罪会見を開いている。

戦争や紛争地に物見で行くのは言語道断、それは批判されるべきだが、ジャーナリストは現場で起きていることを伝えるために仕事として戦争や紛争地に赴いている。

**「自己責任論」以降、大手メディア、特にテレビが戦争や紛争地の取材、フリージャーナリストが取材した結果を報道することに消極的になってしまった。**

イラク戦争の時も48時間のリミットが突きつけられた時点で大手マスコミの人たちはイラクから日本へ帰国した。残ったのはフリージャーナリストだけ。大手メディアの人たちは自社の社員を怪我させたり、死亡させることの責任をとりたくないから。それで良いと思う。

ところが、自社の社員を取材に行かせない危険地域の取材結果をフリージャーナリストから買うこともコンプラ的によくないという風潮になってしまった。

かくして、日本の大手メディアは世界各地で起きている戦争・紛争を取材しないし、フリージャーナリストの映像を使うこともなくなってきた。

現在はロイター、APなど契約の通信社の映像を使って報道している。それらは海外目線の取材だし、現場に日本人が立っていないし、安全なデスクの上で「買った」映像だからニュースになっても臨場感も共感も生まないニュースとなってしまっている。

大手メディアが使えなくなっても僕は取材を続け、講演活動などで伝え続けていた。が、パスポート更新のとき、パスポートが更新できず、更新に半年もかかってしまった。外務省の言い分は「久保田さんトルコに入国拒否されましたよね、その理由が判明するまでパスポートは出せません」と。

幸運なことに戦場カメラマンとしての仕事を20年以上続けているが、一度も捕まったことはなく、外務省に迷惑をかけたこともない。

# フリージャーナリストが黙ってしまったら、誰が真実を伝えるのだろうか？

## イスタンブールの空港で軟禁状態

実は僕以外のジャーナリストでトルコからシリアに入って、シリアの内戦を取材したジャーナリストは、全員がトルコに入国できなくなっていた。僕は例外で大丈夫だったのだが。トルコにいるシリア人難民をAARという日本のNGOの協力で取材するために渡航した時、イミグレから別室に連れて行かれ、強制退国となってしまった。

別室にいたのはイラク人やアフガニスタン人、アフリカの国々の人たちばかりで、勿論、日本人は僕だけ。何の理由も示されず、別室に軟禁状態。軟禁されてから2時間以上、水さえ飲めない状態だった。僕はこんな性格なので軟禁されているアフガニスタン人と仲良くなって彼から水をもらった。最終的に約12時間くらい後の飛行機で日本に帰されることになった。

結局、僕がトルコに入れない理由は聞かせてもらえなかったが、日本への飛行機を待っている時、トルコの係官と仲良くなった。彼は「ごめんね、トルコとしては君が来るのを拒むものじゃないんだけど、これは君の政府からのオーダーなんだよ」と。

噂には聞いていたが、内戦が続くシリアに入るジャーナリストを止めるのは難しいから、2国間の関係性が良いトルコに依頼して、シリアに入ったジャーナリストを入国拒否にしてもらっている、と。

6ヶ月かけてようやくパスポートを取得した。が、次、海外に出る時、成田空港で止められて別室へ。外務省からどの国にどの期間行くのか？と質問攻め。

僕のネットワークを使えば現在起きている戦争を取材することは可能だが、一度行けば外務省からパスポート返納命令が出される。僕のジャーナリスト人生の中で「戦取材」は後一回になってしまった。

日本の大手メディアは日本政府の意向に逆らわない。日本政府にとって一番面倒なのはプレッシャーかけても「真実」を報道しようとするフリージャーナリスト。放置されていたフリージャーナリストだったが、言にくいだが、僕ほど影響力のないジャーナリストたちにまでプレッシャーがかけられる時代がやってきてしまった。

前回のレターで書いたイスラエルのガザへの攻撃に対する大手メディアの残念な反応。日本のメディアは残虐な民間人への攻撃を批判できていない。僕の友人もそうだが、日本政府の意向に従わないイスラエル批判のコメントはチェックされ、政府からの嫌がらせが行われる時代。

## フリージャーナリストが黙ってしまったら、誰が真実を伝えるのだろうか？

本来、自由な意見交換ができる場であるSNSだが、今の大学生は就職に悪影響があると個人が特定されやすいFacebookは使わず、匿名性の高いInstagramを使う傾向が強い。それでさえ不安な人は「裏アカ」なるものを作り、そこでだけ本音を吐く。ジャーナリストだけでなく、社会全体で本音を言えなくなる世の中。

報道自由度ランキングの上位にある北欧の国々のように言論の自由が確保され、国家機密なるものが殆どなく、個人の意見が自由に言える社会が理想だと思うのだが。報道自由度ランキングと幸福度ランキングは結構リンクしていて、報道自由度が高い国の幸福度は高い傾向にある。

経済だけが豊かさの指標ではなく、思想や言論の自由が確保されているのが豊かさ（幸福度）につながっている。

日本の幸福度ランキングは現在55位、2021年の47位から3年連続でランキングを落としている。

久保田弘信